

広報

東みよし

NO.17
2007. 8
August

～ 元気・交流・未来へ ふるさと東みよし町 ～



カンドリ舟が浮かぶ吉野川(ぶぶるパーク北)

＝ 今月の紙面 ＝

がんばる!東みよし町	2～3
こちら国民文化祭実行委員会	4
人権ホッと	5
お知らせ	6～15
まちの話題	16～17
人の流れ	18
文化協会だより	19

＝ 町の人口 ＝

男	7,687人	(- 4)
女	8,511人	(- 9)
人口	16,198人	(-13)
世帯数	5,847	(+ 8)

(平成19年7月1日現在)



オアシス四連合同阿波踊り

がんばる！ 東みよし町

東みよし町が、徳島県西部の阿波踊り振興拠点となるべく推進する、町事業「オアシス阿波踊り」。その舞台で目下活躍中の、東みよし町地元連「みのだ連」「若阿友連」と、三好市の池田町阿波踊り観光連所属連「さつき連」「多びす連」の4連が一体となった「オアシス阿波踊り4連合同連」。平成16年からの3年間、自分たちの踊り活動をどう地域社会に活かすべきか、連間での議論やさまざまな実演で試行錯誤を積み重ね、平成19年3月に4連一致の思想のもとに誕生しました。

この合同連は、徳島県が世界に誇る素晴らしい文化である「阿波踊り」を深く研究・追求することで「阿波踊りの発展」と「個性と魅力にあふれた町づくり」に寄与することを目的としています。個別の連活動に終始せず、町や町民、地域を巻き込んだ活動を行い、町合併間もない町民相互の融和を醸成し、地域の活性化及び観光客等来町者との交流の輪の拡大を図った活動を展開中です。

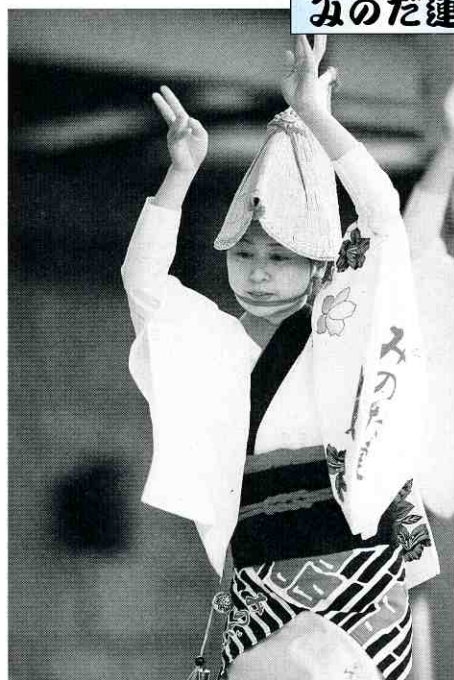
合同連では、各連の特長を融合させ、持ち味をより効果的に魅せる独特の複合演出に工夫を凝らしています。生み出す演出一つ一つは、本場徳島市内とは違った切り口で、しかも何ら遜色のない出来映えとなっています。

現在までの4連合同連の主な公演は、毎年4月に開催される「桜まつり」や、平成18年11月の「東みよし町まつり」、平成19年5月にリハール大会が開催され、本大会が10月に予定される「第22回国民文化祭・とくしま2007文芸祭「俳句」大会」等でのアトラクション公演が挙げられます。最近では、県外にも評価され始め、「熊本市」や「香川まるがめ市」から伝統芸能交流イベントの誘いがあるなど、自治体間の交流促進にも一役かついています。広域的な視点で、さまざまな人々や文化と交流することは、相互理解に基づいた多様な文化が共生できるまちづくりに繋がると思われます。



広報東みよしでは、町のために「がんばる」人々や各種団体の情報を募集しています。たくさんの情報をお待ちしています。

みのだ連



十手を取り入れた斬新な男踊り、男性顔負けのダイナミックな女性の男踊り、女踊りは清楚しなやかな和の女性のやさしさを表現しております。
鳴り物は、歯切れの良いハイテンポのリズムを身上としています。

連長 木村 秀樹

若阿友連



男踊りは、豪快な踊りで阿波男の力強さを表し、女性の着流し踊りは、技を磨きしなやかに。
伝統を受け継いだ、鳴り物・踊りが一体となり、昨今成長著しい連です。

連長 上野 正明

幡鉾泰治会長

4連合同連組織の連員は、各連での練習とともに、合同公演に向けた練習も行っています。そうすると、1週間の内、自分のプライベートの時間をほとんど阿波踊りに費やすことになり、運営に関わる苦勞も何倍かになります。にもかかわらず、この合同連が成功を収められているのは、ひとえに連員の郷土愛の賜だと思えます。彼らには、地域観光振興事業の一員として、プロ意識を持ちながら、『阿波踊り』の発展に生涯携わり、町や県西部圏域の振興に貢献してゆくのだという覚悟があるのです。衰退の一途をたどっていた県西部の阿波踊りが、東みよし町の吉野川ハイウェイオアシスの誕生により、阿波踊り事業を年間通じて行うことで、かつてない盛り上がりを見せています。ふるさとに対する感謝の気持ちを胸に、今後も幅広い活動を展開してゆきたいと考えています。

プライベートを割き、自らに妥協を許さず、汗と涙で人々に感動を与える美技を創出し、輝きを放つ『オアシス阿波踊り4連合同連』。がんばる東みよし町の未来への希望の一番星です。

あびす連



個性派ぞろいの踊り手がひしめく男踊りは豪快活発に、女踊りは優美な指さばきで桜のように美しく、そして鳴り物は、豪快な中にも調和のとれた阿波の夏を表現しております。

連長 富士枝 伸二

さつき連



女性は艶やかな衣裳で優美かつしなやかに、男性は粋な法被で自由奔放、豪快に踊ります。
鳴り物は独自のテンポで、伝統を受け継ぎながらも時代にあった踊りに取り組んでいます。

連長 大西 正子

